



遊星型傾斜ロール式圧延機の紹介

鍋島 康仁*

1. 緒言

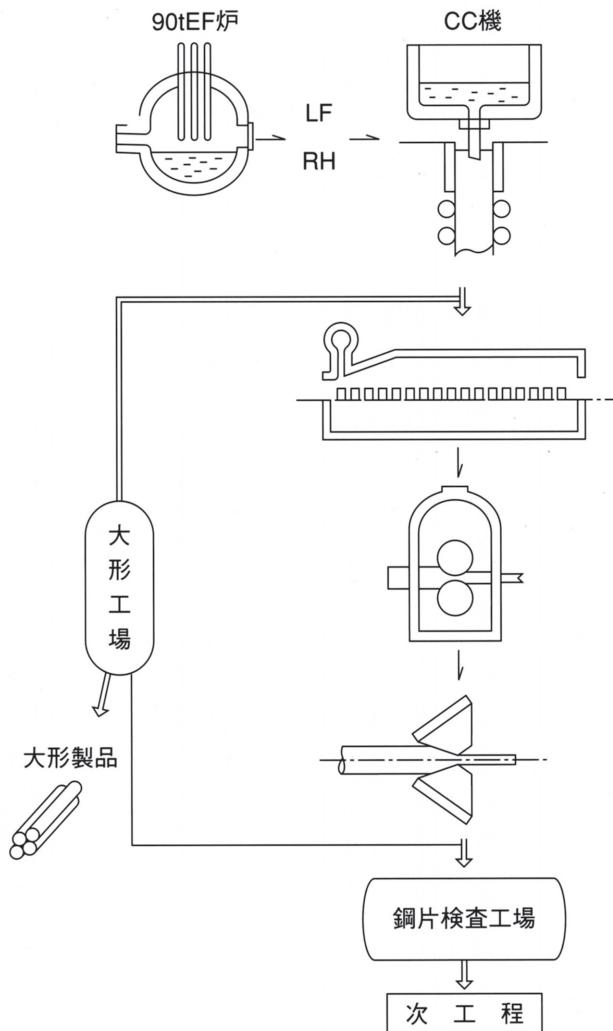
当社では製鋼・連鋸・圧延・検査の一貫工場として建設した第2製鋼工場の圧延ラインに、遊星型傾斜ロール式圧延機（PSW：Planeten Schräg Walzwerk）を採用し、多サイズの棒線用鋼片及び钢管用管材を製造している。以下にその概要を紹介する。

この工場は昭和57年に操業を開始した。図1に工場のレイアウトを示す。設置されたPSWは国内第1号機である。

現在、鋼片及び管材の仕上圧延機として順調に稼働している。

2. PSWの機構及び特徴

PSWには3個のロールが設置され、自転しながら公転する。このロールの動きが、太陽のまわりを廻る地球のような惑星（遊星）の動きと類似であることから、遊星型傾斜ロール式圧延機と呼ばれている。



加熱炉	型式 ウォーキングビーム式（廃ガスボイラー付） 炉長×炉内巾 36m×4.8m 被加熱材 380mm×490mm×(3~4.5)m 能力 110t/h 燃料 C重油
分塊圧延機	型式 二重可逆式圧延機 口一ル $\phi 975 \times L 2400\text{mm}$ ダクタイル 駆動モーター D C 3000kW×1基 圧延形状 380mm×490mm→ $\phi 210 \sim \phi 167$
鋼片圧延機	型式 遊星型傾斜ロール圧延機（PSW） 口一ル $\phi 685 \times L 275 \times 3$ ヶ 駆動モーター 主DC1500kW×2基 次DC1500kW×1基 圧延形状 $\phi 200 \sim \phi 85$ 出側材料速度 max. 0.6m/sec ローター回転数 max. 130rpm オフセット角 9°又は10°
R-U-S-T	型式 探触子回転式水浸超音波探傷方式 形状 $\phi 167\text{mm} \sim \phi 85\text{mm}$
磁気探傷機	型式 軸通電式

図1 第2製鋼工場レイアウト

* 製鋼部鋼片課

3個のロールは円錐形をしており、このロールでつくれられる内接円の寸法で圧延される鋼材の寸法が決められる。圧延速度はこの円錐形ロールの軸傾斜（オフセット）と公転速度によって決まる。

図2にロールの構造を示す。

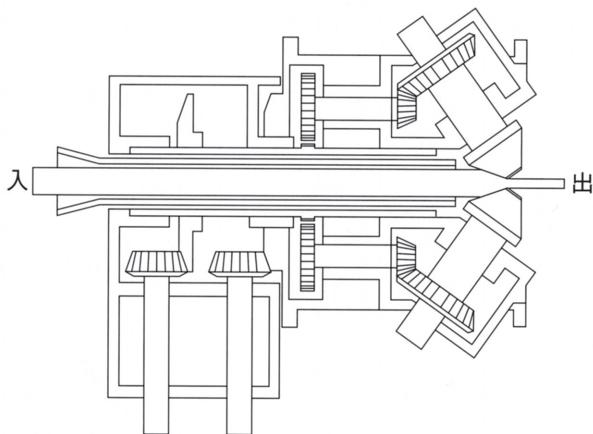


図2 遊星型傾斜ロール圧延機の構造

この圧延機は、通常の圧延機と比較すると次のような特徴を持っている。

- (1) 高減面率の圧延が可能である。例えば、最大の圧延比を探ると $\phi 190$ の母材を1回のパスで $\phi 90$ の管材に仕上げることができる。
- (2) 真円度及び真直度が良好である。
- (3) 作業性が良好である。サイズ変更が容易で案内ガイドが不要である。
- (4) 生産性が高い。PSW 1台で、通常の6スタンドの圧延機の生産性がある。
- (5) メンテナンスが容易である。
- (6) 組型替時間が短く、小口多サイズ圧延が可能である。
- (7) 設備費が安い。

3. PSW圧延の特性

- (1) 圧延対象鋼種：炭素鋼、合金鋼、軸受鋼及びステンレス鋼。
- (2) 生産性：ローター回転数及びロールオフセット角を変えて、最大0.6m/secの圧延が可能である。
- (3) ローリングスケジュール：母材寸法 $\phi 167 \sim \phi 210$ 、圧延寸法 $\phi 85 \sim \phi 200$ 、最大圧延比4.46。表1にローリングスケジュールを示す。
- (4) 寸法精度：外径寸法士1.0%以内。
- (5) 真円度：良好。但し、入側母材の真円度に影響されやすい。
- (6) ロールマーク：0.3～0.5mmの凹凸のラセン状マークを生じる。変形抵抗が大きい程、また圧延比が大きい程凹凸が生じやすい。図3にロールマークの状況を示す。

- (7) 表面及び中心：圧延の機構上、特に、難圧延材でも表面性状が非常によくなる。また、案内ガイドがないため、圧延疵の発生が少ない。中間及び中心部の改善効果は、高減面率圧延の割には比較的少ない。

表1 ローリングスケジュール

分塊仕上サイズ	P S W仕上サイズ
$\phi 210$	$\phi 200 \sim \phi 172$
$\phi 190$	$\phi 172 \sim \phi 90$
$\phi 172$	$\phi 167 \sim \phi 90$
$\phi 167$	$\phi 152 \sim \phi 85$

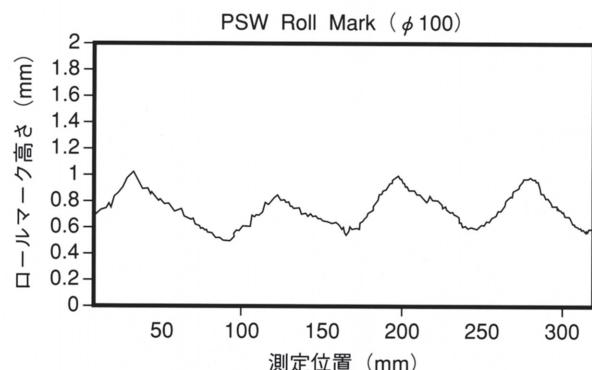


図3 PSW圧延した鋼材表面のロールマーク

4. サイズ変更及びメンテナンス

原則として、圧延寸法で10mm毎に専用ロールを持ち、ロール交換を行っている。ロール交換は、専用の交換台車を使用して9～13分/回で行われる。なお、5mm前後のサイズ変更は1分程度の短時間で可能である。ロールヘッドの分解点検整備は、1.5年周期である。

5. 結言

現在、PSW圧延累計は780万tを超える。ビレット圧延機としては、組型替時間が短く、小口多サイズ圧延が可能であり、PSWは現在のところ最も生産性の良い圧延機といえる。今後更に次工程のニーズに対応した操業を目指す。